

資料配布の場所

1. 国土交通記者会
 2. 国土交通省建設専門紙記者会
 3. 国土交通省交通運輸記者会
 4. 筑波研究学園都市記者会
- 令和6年8月5日同時配布



令和6年8月5日
国土技術政策総合研究所

国総研資料『水循環解析に関する技術資料Ⅱ』を公表 ～水循環解析の社会実装をサポート～

- ・国総研では、福井県大野盆地を対象に、「気候変動による地下水位への影響の試算」のケーススタディを行いました。
- ・この試算結果と「水循環解析モデルの設定手法」を詳しくまとめたので、「水循環解析に関する技術資料Ⅱ」として令和6年8月5日に公表しました。

<解説>

- ・国総研では、技術的に難易度の高い水循環解析の社会実装について、地方公共団体や地方整備局をサポートしており、平成28年には、水循環解析に関する技術資料を公表し、水循環解析に関する「基本的な知識」や「必要な資料」、「設定の流れ」についてまとめました。
- ・そして、この度、福井県大野盆地を対象に「気候変動による地下水位への影響の試算」のケーススタディを行いました。この結果と「水循環解析モデルの設定手法」を詳しくまとめたので、続編の「水循環解析に関する技術資料Ⅱ」として公表するものです。

<ダウンロード先>

- ・本資料は、国総研ホームページで公開しています。
- ・ダウンロード先URL：

<https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn1283.htm>



(問い合わせ先)

国土技術政策総合研究所 河川研究部 水循環研究室 室長 竹下哲也(内線 3541)
TEL: 029-864-2325 E-mail: takeshita-t2hp@mlit.go.jp
(メールアドレスは●を@に変換して送信してください)

水循環解析とは何か？

◆**水循環解析**とは、**表流水モデル**と**地下水モデル**を中心として、**降雨**、**融雪**、**蒸発散**、**表面流出**、**地下浸透**、**地下水揚水**、及び**河川と地下水の水交換**などの水文プロセスを組み合わせ、**一体的かつ広域的に解析を行う技術**です。

◆『**水**』の恵沢を持続的に享受するには、**水循環解析による施策の効果の評価が重要**と考え、国総研では、技術的に難易度の高い水循環解析の社会実装をサポートしています。

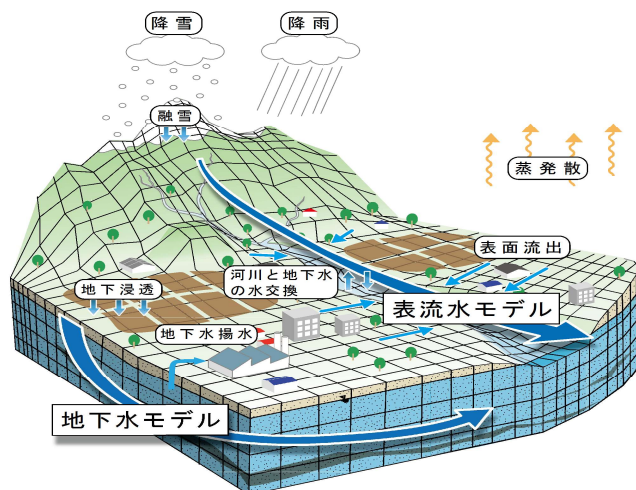


図1 水循環解析モデルの概念図

「福井県大野盆地における気候変動による地下水位への影響」の概要

◆水循環解析により、過去実験、2℃上昇実験、4℃上昇実験の条件下で各**360年(計1080年)**の計算を行いました。

◆**年平均地下水位**でみると、4℃上昇実験では有意に低下傾向。パリ協定の目標の2℃上昇実験では明瞭な低下傾向は確認されませんでした(対象8地点)。

◆ただし、**最低地下水位が発生する月**では、2月～3月に**減少傾向**、8月～11月に**増加傾向**がみられるなど、季節的な変動傾向には変化が見られました。

評価対象: 8地点	年平均地下水位	
	平均的な年	10年に1回程度の 渇水年
2℃上昇実験	-0.02m～0.00m	-0.03m～0.00m
4℃上昇実験	-0.21～-0.07m	-0.34m～-0.11m

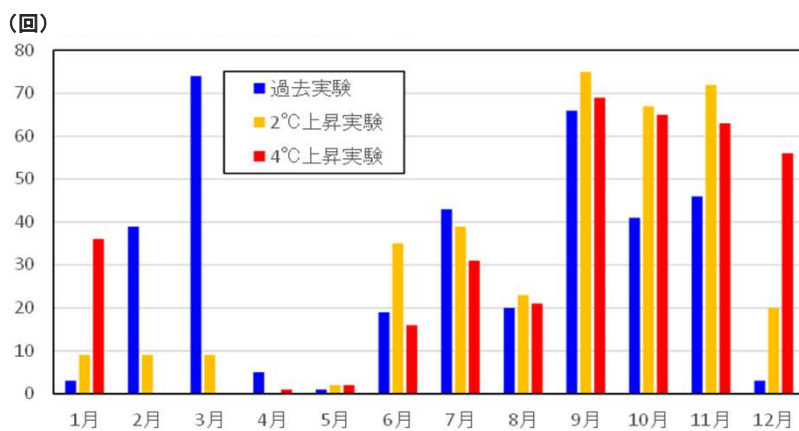


図2 各実験(各360年)における最低地下水位の月別発生回数(春日公園)

水循環解析に関する技術資料Ⅱの公表

◆平成28年に、**水循環解析に関する技術資料**を公表し、水循環解析に関する基本的な知識や必要な資料、設定の流れについてまとめました。

◆そして、この度、福井県大野盆地を対象に、**気候変動による地下水位への影響の試算**のケーススタディを行いました。この結果と**水循環解析モデルの設定手法**を更に詳しくまとめたので、続編の**水循環解析に関する技術資料Ⅱ**として公表するものです。



水循環解析に関する技術資料

<https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryoutnn/tnn0883.htm>



水循環解析に関する技術資料Ⅱ

<https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryoutnn/tnn1283.htm>